



AG-3DA1

“一貫したワークフローが組みやすい 3D カメラ” 技術面からサポートできるクリエイターを育成

株式会社 共同テレビジョン

(株) 共同テレビジョンでは 3D 撮影システムのラインアップ拡充を目的として、パナソニックの一体型二眼式 3D カメラレコーダー [AG-3DA1] を導入した。同社では VE (Video Engineer) を担当する若手スタッフからステレオグラファーを育成するなど技術サポート体制を確立し、クオリティの高い 3D コンテンツ制作を強力にサポートしていく。

共同テレビジョンでは [AG-3DA1] の導入とともに、ハーフミラーを使用したビームスプリッター方式の 3D Rig × 2 式も導入し、幅広いジャンルの 3D 収録に対応していく体制を整えている。[AG-3DA1] は、3D 撮影システムのラインアップにおいて、3D Rig との並行使用ではなく、軽量・コンパクトを活かした“使い分け”を行っていくという。

同社 3D 広報担当の山下浩氏は「それぞれのジャンルの狙いに最も適した 3D 制作を提供していきます。当社では通常の 2D 制作において、単に撮影するだけでなく、プロデュース／ディレクション機能を加えた独自の映像制作、さらには編集までを見据えた一貫した作業によって、トータルコストを抑えたワークフローを確立しています。3D コンテンツ制作においても同様のシステムの確立を目指しており、[AG-3DA1] による 3D 撮影はそれに最も適していると考えています。情報番組等で多用されているカメラマン兼ディレクターといったような運用や、手軽に持ち出せる機動力が、3D コンテンツの可能性も広げるのだと思っています」とする。

また、ステレオグラファーの森本遊矢氏は「[AG-3DA1] が持つ機動性は、3D Rig とは正反対といえます。左右の光軸・画角・画質合わせが不要であり、PC や外部ビデオプロセッサーなどで補正する必要のあった従来の 3D カメラシステムと比較して、速やかに撮影することが可能となってます。そのため、狙いやコンセプトが全く違った 3D コンテンツ制作ができると考えています。さらに、カメラの個体差やミラーを介した映



像のズレもなく、ノンリニア編集システムとの親和性も高いなど、一貫したワークフローも組みやすいと思います」としている。

同社では、VEを兼務する若手スタッフからステレオグラファーを育成し、これまで国内外の3D技術トレーニングや3D技術者育成セミナー、カンファレンスなどに参加するとともに検証テストを重ね、映像技術力とノウハウを活かして制作現場を全面的にサポートできる体制を整えている。

山下氏は「3Dコンテンツ制作市場は急激に拡大してきていますが、最も重要なのは安心・安全な3Dコンテンツの提供です。技術的なバックボーンを有したステレオグラファーがテクニカルコーディネイトを担当することで、被写体に合わせたセッティングを効率良く行うことができるだけでなく、安全基準に則した3D制作が提供できると考えています。“技術発信の映像制作”および“従来とは違った技術目線での映像づくり”を目指す共同テレビジョンとして、3Dコンテンツ制作についても、技術面からサポートできるクリエイターの育成に努めてきました」としている。

森本氏は「確実な3D収録をコーディネートすることで、後処理に要する作業量・時間・編集コストも下がってきます。安全な3D視聴を常に意識しながら、ディレクターの意図を立体でいかに表現できるかが我々の役割だと思っています」と語る。



山下浩氏

森本遊矢氏